Doshisha Women's College
ワンダフル大学院

みんなで叶える夢、
未来に想いをはせて。

Oct.12th,2020

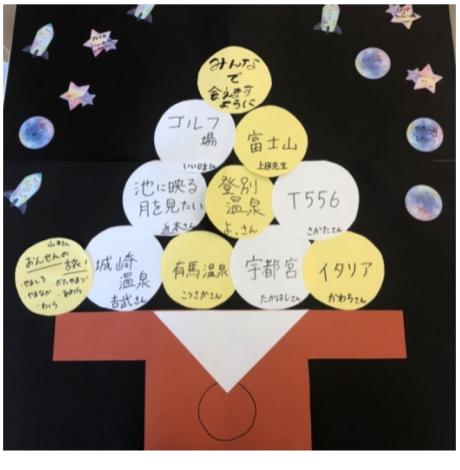
Wonderful 通信
vol.44
～月に願いを～

今月のテーマ

月に願いを。

「秋」といえば中秋の名月。今回のワンダフル大学院ではそれにちなんだお月見講座を特別企画！“自分が今行きたい場所”を月見団子に見立てた用紙に書いて持ち寄りました。さあ、みんなの願いは月に届いたのでしょうか？

プログラム



０１
まずは恒例の自己紹介から！行きたい場所と名前を一人ずつ発表していきます。
行きたい場所では温泉が圧倒的第一位でした！
また「T556に行きたい！」というAさんの声には思わずみんなほっこりしました。

０２
お月見講座では、自己紹介で発表した行きたい場所について深堀りしました。楽しいおしゃべりに花が咲きます。
そして各自持ち寄ったお団子の用紙に思いを込めると……なんとT556のPちゃんに届きました！
これにはAさんたちもびっくり！

０３
早口講座担当のAさんが講座についてお知らせしてくださいました。毎週水曜日９：３０～のいつもの講座に加え、12月にはビックイベントがあるそうです！Aさんの話している様子から、講座への熱い思いが伝わってきました。

０４
みんなから届いたお団子が一つのお月見団子に…！すると司会のPちゃんから目を閉じて“お願いポーズ”をするように指示が。なんだろう…とワクワクしながら目を開けると、不思議な音とともにかわいいウサギちゃんが登場しました！そして、みんなのお願いを顔写真や風景写真を使った旅行動画にして叶えてくれたのです！いざ、仮想旅行にレッツゴー！みんなの歓声がわあ～っと上がります。
ちょっぴりトラブルもありましたが、すてきなサプライズにみんな大満足の表情でした！

意図と介入

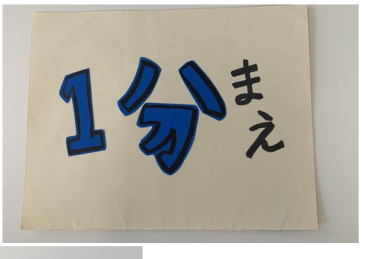
０１
私たちが今回のワンダフルで意識したことは①全員参加②AさんとPちゃんの温度差を無くす③空間共有④新たな参加者を得るといった４つのポイントです。

０２
お月見講座では、全員で協力したものが一つになることを大切にしました。全員で一つのものを作る、見るという過程で、参加意識の向上や、達成感を味わうことを目的としました。そのためには、参加者全員が作品作りに参加するメンバーの自覚を持つことが大切です。今回はAさんはお団子を作り、Pちゃんは星やロケットに願い事を書いてみんなで一つの作品を完成させることが出来ました。

０３
私たちが一番工夫したことはAさんとPちゃんの温度差を無くすという点です。同じ場所にいなかったとしても、同じ空間を共有出来るようにするために、事前にPちゃん側でもお団子を用意しました。そして、Aさんが画面の向こうにいるPちゃんに渡したお団子を、「５５６のPちゃんが受け取る演出を行いました。私たちが温度差がないと感じた瞬間は、共感に対する頷きの回数が多い時や、全員が同じタイミングで笑っている時です。他にも気づいたこととしては、トラブルが発生した際に、Aさんが「じゃあ、順番を変えよう！」などというようにスタッフ側になって下さっていた時です。

０４
また、旅行になかなか行けない状況ですが、旅行に行った気分になってハッピーになって欲しいという思いから仮想旅行を企画しました。自分の言ったことが動画という形になることで、考えを他の参加者と共有出来ることを目的としました。

場所は離れていても
繋がりを感じる空間にするために



小物を使った工夫
1分前ボードを使用することで賑やかな雰囲気からこれからワンダフルが始まるという緊張感を作りました。
また、今回のテーマはお月見ということで小物を作って、お月見と言えばうさぎ、お団子というようにみんなが認識を共有できるようにしました。

“ものつくり”の新たな試み

違う場所で一つのものを作った、新たなワンダフル。

Aさん、Pちゃんの双方に向けアンケートでは、10月は双方ともに満足した結果となりました。目標としていた、「全員のコンセプト共有と理解」の部分では、イラストや小物でお月見の共通認識が図れ、ワクワクを感じ取ったAさんが多いようです。

ですが、他の参加者との関係性の構築、貢献度は共にバラつきが見え、やはり「作品を一緒に作る」部分ではまだ受け身の参加者が多い結果となりました。Aさんも作り手に回るという意見も出ており、その案が有効だと言えるでしょう。

笑いヨガやハイキング。また参加者の注意向上のため「30分間、画面のどこかに出てくるウサギが何匹か数える」など、新たな案に期待です！

《次回のワンダフル大学院 LINE×ZOOM》

日時：11月9日（月曜日）
　　11：00〜12：00
内容：遠足をオンラインで体験